

生徒指導・教育相談における児童生徒を支援する力を高める研究

～児童生徒理解に焦点を当てて～

福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 村上 潤一

1 研究の趣旨

本研究のねらいは、児童生徒理解に焦点を当てた校内研修の充実と、教員の日常指導の見直しを通じた、教員自身及び教員組織の「児童生徒を支援する力」の向上にある。本研究においては、教員が日頃の自分自身の児童生徒理解に対する取組について確認し、それを基に児童生徒理解を多面的・多角的に深めたり、深めた理解を日常の指導・支援に直接的・間接的に活用したりすることができるような校内研修の内容や日常指導の在り方について提案することを通して、「児童生徒を支援する力」の向上を目指したい。

各学校において、児童生徒理解の深化やその理解を生かした指導・支援の在り方に焦点を当てた校内研修と日常指導の充実を図れば、教員及び教員組織の「児童生徒を支援する力」を向上させることができるであろう。

2 研究の概要

- (1) よい学級をつくっている教員の日常指導に関する基礎調査
 - ① 基礎調査の対象の選定と内容の検討
 - 昨年度の「Q-U」のデータが「満足型学級」になっている県内小・中学校の教員に対し、学級経営上の工夫やコツを尋ね、その回答を基に「日常指導ふりかえりシート」を作成する。
 - ② 基礎調査の活用
 - 「日常指導ふりかえりシート」を研究協力校の教員に実施し、自分自身の日常指導の傾向や現状について確認してもらう。その結果から、これからの日常指導の方針や方向性を再確認し、実施可能な具体策を策定してもらう。
- (2) 研究協力校における校内研修の方向性と内容・方法
校内研修は、同じ校舎の中で生活している小・中学校2校の教員による合同研修とし、研修を通し小・中学校の教員同士が連携と共通理解を深めることができるようにする。その際、次の点に留意して研究を推進する。
 - ① 教員の「児童生徒を支援する力」のアンケート結果から課題を把握する。
 - ② 教員の児童生徒理解に関する研修ニーズを把握し、研究実践の内容に反映させる。
 - ③ 「Q-U」により、児童生徒の実態と教員の児童生徒への関わり方について把握する。
 - ④ 年間4回の校内研修を定期的に行うことを通して、教員の「児童生徒を支援する力」を高める。

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - ① 「日常指導ふりかえりシート」を研究協力校の先生方に実施したことにより、教員自身が自分の日常指導の傾向や現状について確認することができたり、その後の指導の在り方について見通しをもつことができたりした。
 - ② 「Q-U」の結果を生かした児童生徒理解の深め方に関する講義・演習を通して、個と集団の両面から児童生徒を支援していくことの大切さについて認識を高めることができた。
 - ③ 構成的グループエンカウンターやアサーショントレーニング等の演習を通して、教育相談的手法を活用した学級集団づくりについて、その有効性を実感してもらうとともに、実践意欲を高めてもらうことができた。
 - ④ 全ての校内研修を小・中学校合同で実施したことにより、両校の教員間の情報交換や意見の交流が促進された。加えて、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見据えた支援を的確な児童生徒理解に基づいて行っていくことの重要性について、改めて確認してもらうことができた。
 - ⑤ 生徒指導・教育相談に関する校内研修を定期的に行うことで、研究協力校の教員の学ぶ意欲や研修に対する興味・関心を高めることができた。
- (2) 今後の課題
 - ① 友人関係や家庭環境、学習面などに何らかのストレスを抱えている児童生徒が多いという研究協力校の実態を踏まえ、今後はストレスを自分で回避したり軽減したりしていける児童生徒を育てるための「ストレスマネジメント」に関する内容や、第2回目の「Q-U」データ等から把握された課題の解決に資する内容について校内研修を継続的に行っていきたい。
 - ② 教員の「児童生徒を支援する力」の変容や「日常指導ふりかえりシート」等の有効性について把握し、2年次の研究に生かしていきたい。
 - ③ 「Q-U」の結果を児童生徒理解、学級集団理解のさらなる深化につなぐとともに、具体的な指導・支援の検討・実施にも生かすことができるよう、校内研修の内容の精選・充実を図っていきたい。